

れ

舌音にして單子音の一つ。う音に續く時は
りようを發音する事多し。

禮(名)

〔一〕人として守るべき秩序の道。●禮式。
●禮儀。〔二〕人に對して禮意を表する所爲。
●敬禮。●拜禮。●辭儀。〔三〕謝辭を述べ
る事。●謝禮。〔四〕禮として贈る金品。●
禮物。●報酬。〔五〕書物の名。禮記。

靈(名)

〔一〕たましい。●みたま。●靈魂。〔二〕
靈妙。●不思議。〔三〕靈驗。

令(名)

〔一〕命令。●仰せ。〔二〕法令。●布達。
中に舌あり上に柄ありて手に持ち振り鳴
らす小さき鐘。

れい

鈴(名)

數學上の數の空位を呼ぶ詞。たゞへば二
千五百十といふ數を二五二〇と書けば〇の
符號もて示したる處。故に之を「にこいち
零」と唱ふ。

零(名)

〔一〕古來の仕來り。●仕附けたる事。●
ためし。●先例。○源氏「親そひて下り給
ふ例なき事なれば」〔二〕習慣。●常。●い

れい

例(名)

つもある事。○伊勢「世の中の例として」
〔三〕不斷。●平生。○枕「例はさしもさる
もの目近からぬ處に」

靈異(名)

奇異なる靈驗。●不思議。

れいろう

玲瓏(副)

少しも曇りなく透き通り輝く有
樣。〔又〕玲瓏さ。△(形)玲瓏たる。

れいはい

禮拜(名)

拜禮に同じ。をがむ事。

れいはい

靈牌(名)

位牌に同じ。

れいはいだう

禮拜堂(名)

基督教にて神を禮拜するた
めに集まる家。●會堂。●教會。

れいほう

禮部(名)

治部省の異名。

れいへい

例幣(名)

古代公事の名。九月十一日伊勢大
神宮へ幣帛を奉り給ふ式。

れいへいし

例幣使(名)

例幣の爲に立つ勅使。

れいご

零度(名)

度數を測るさき其基本とする度ない
ふ詞。寒暖計の氷點、緯度の赤道の類。

れいだう

辰道(名)

道理に戻る事。●無道。●無禮。

れいち

靈地(名)

神社佛閣のある土地。●靈場。●靈
域。●靈區。

れいちべぢう

令嬢(名)

他人の娘の尊稱。

れいぢや^{ヂョウ}

靈場(名) 靈地に同じ。

れいり

怜悯(名) さしき事。●利口。(形)——怜悯なる。(副)——怜悯に。

れいかた

禮方(名) 諸禮の法式。●禮法。

れいかん

靈感(名) 神佛の不思議なる感應。●靈驗。

れいだい

例題(名) 例さ爲るべき題の種類を集めたもの。○「算術例題」

れいたん

冷淡 其事に身を入れぬ事。●不熱心。(形)——冷淡なる。(副)——冷淡に。

れいそく

令息(名) 他人の息子の尊稱。

れいらく

零落(名) 落ちぶるゝ事。●落魄。(動)——零落す。

れいむ

靈夢(名) 神佛の示現を蒙りたる夢。

れいく

靈區(名) 神佛の境内。●靈域。●靈地。●靈場。

れいぐい

例外(名) 常例の外。●さりのけ。

れいぐう

禮遇(名) 敬禮を以てする待遇。●優待。△(動)——禮遇す。

れいぐう

冷遇(名) 冷淡なる待遇。△(動)——冷遇す。

れいけい

令兄(名) 他人の兄の尊稱。

れいけい

令閨(名) 他人の妻の尊稱。

れいけつ

令月(名) 「一」目出度き月。「二」朗詠の曲名。例言(名) 書籍の初に書く編輯上の條例。●

れいけん

凡例 靈驗(名) 神佛の不思議なる効驗。●靈感。

れいふく

禮服(名) 儀式の時着用する服。

れいこん

靈魂(名) たましひ。●幽靈。

れいかう

靈香(名) 神佛天人などの出現する時に起る靈妙不思議の香氣。○謠曲「虚空に花降り

音樂聞え。靈香四方に薫す」

れいてん

零點(名) 零度の處。

れいさい

靈祭(名) たままつり。●先祖祭。

れいき

例祭(名) 定例の祭典。

れいき

冷氣(名) 冷なる氣候。●秋冷。

れいぎ

例規(名) 條例。●規則。

れいきん

禮儀(名) 應對、談話其他の作法。

れいめい

禮金(名) 謝禮としての金。●謝金。

れいめい

黎明(名) いなのめ。●しのいめ。●明方。

れいし

靈妙 神佛に關する不思議。●奇異。(形)——靈妙なる。(副)——靈妙に。

荔枝(名) 「一」龍眼肉の一名。「二」瓜の名。一名は苦瓜。

れいし

令旨(名)

皇后、親王より出だす命令。●リヤ

うじ。

れいし

靈芝(名)

菌の一種。紫を帯びたる黒色にして

其質堅きもの。

れいし

隸書(名)

漢字の書體。楷書の少し篆書が、り

たるもの。

れいせ

う

冷笑(名)

可笑しくなき事を強ひて笑ふ

事。●にがわらひ。△(動)―冷笑す。

れいじ

う

禮狀(名)

謝禮を述ぶる書狀。●謝狀。

れいじん

伶人(名)

雅樂を奏する人。●樂人。

れいし

禮者(名)

年始の祝儀の廻禮する人。

れいし

禮式(名)

禮儀の法式。●禮法。

れいせい

靈廟(名)

御靈屋。●御廟所。

れいせい

勵精(名)

勤め勵む事。●出精。●勉勵。△

れいせつ

禮節(名)

禮式作法。

れいぜん

靈前(名)

みたまの前。●神前。●佛前。

れいす

禮(他動サ變)

禮儀を施す。●敬禮する。●拜

する。●辭儀する。

れいす

令(他動サ變)

命令する。●下知する。

れいす

冷水(名)

ひやみづ。

れにし

櫛子(名)

れんじに同じ。(和名抄)

(名)

列の雅言。

れち

列(名)

「一」ならび。「二」行列。「三」語學上にて

は五十音の横行。

れつち

烈女(名)

貞女。●烈婦。

烈婦(名)

烈女に同じ。

れつぷ

烈風(名)

烈しき風。

れつでん

列傳(名)

人々の傳を列舉する歴史の一部

分。

れつざ

列座(名)

列席に同じ。△(動)―列座す。

れつざ

列席(名)

其席に列する事。●列座。△(動)―

れんす

列(自動サ變)

つらなる。●ならぶ。

れん

蓮(名)

草の名。はちす。●はす。

れん

聯(名)

書畫詩歌など書きて柱に掛くる板。●柱

隱。●柱懸。

れんいん

連印(名)

連名して捺印する事。●連判。△

れんばつ

連發(名)

引續きて發砲する事。△(動)―連

發す。

れんはん

連判(名)

連印に同じ。

れんばんじ^{ベンジョウ} 連判狀(名) 同志の人々の連判した

ス盟約書。

れんぼ 戀慕(名) 戀ひ慕ふ事。●戀着。△(動)―戀慕す。

れんば^{ボウ} 聯邦(名) 聯合の約束によりて成立したる數個一體の邦國。○「獨逸聯邦」

れんべい 練兵(名) 兵隊の訓練。

れんち 廉耻(名) 耻を知るの心。

れんち^ク 廉直(名) 廉價に同じ。

れんち^ク 戀着(名) 戀慕。△(動)―戀着す。

れんち^{ユウ} 簾中(名) 公卿大名の奥方の稱。

れんち^{チュウ} 連中(名) 仲間。

れんり 連理(名) 甲の木と乙の木と本は別にて枝の末

が一つに附着したるもの。常に男女の深き中の喩に用ふ。

れんるゐ 連累(名) 罪のまきぐへに逢ふ事。●運座。

△(動)―連累す。

れんか 廉價(名) 價の安き事。●安直。

れんが 連歌(名) 二人以上寄り合ひて作る和歌。これ

に三時期の沿革あり。「一」第一期は上古より中古に至り。唯常の一首の和歌を贈答の

やうに二人してよむ事。枕草紙に「紙の散りたるに(宮)下殿こそ戀しかりけれ。(下の句)と書かせ給ひて本いへど仰せらるゝもをかし。(清少納言)時鳥尋ねて聞きし聲より(上の句)と書きて参らせられたば」とあるの類。……但し此の如く下の句より先にするも又上の句より先にするもあり。是は第二期までも同じ事なり。「二」第二期は中古より近古に至り。贈答のやうにするは同じ事なれど意味が言葉かに必ず秀句を言ふものと爲れり。金葉集に「和泉式部賀茂に参りけるに藁鞋に足を食はれて紙を卷きたりけるを見て神主忠頼 千早ぶる神(紙、上)をば足に卷くものか(上の句)和泉式部 これを下の社さはいふ(下の句)」とあるの類。「三」第三期は近世の末より徳川時代を通して行はれたるもの。和歌の上の句下の句上の句下の句と幾首も連れよむものにて最早秀句を用ひず。又言葉も稍一種の連歌的風調を成して本歌に比ぶれば卑俗に近きものとなり來れり。

れんがし

連歌師(名) 第三期の連歌を専門とする人。

……れんがを見よ。

れんようげん

連用言(名) 文法上の詞。他の用言に直

に續くべき動詞。行き起き消ぬの類。

れんだい

鞞臺(名) 輿を載せて昇く臺。●又昔し川越

しに人を載せて渡したる臺。

れんだい

蓮臺(名) 極樂に到りし人の座し得るさいふ

蓮華の上の席。

れんたいげん

連體言(名) 文法上の詞。體言すなはち

名詞に直に續くべき動詞の稱。行く起くる

消ゆるの類。

れんれん

戀々(副) 戀しさの情に堪へぬ有様。(又)一

戀々々。

れんさう

聯想(名) 其事に伴はれて他の事を想ひ出す

事。△(動)一聯想す。

れんぞく

連續(名) 引き續く事。●繼續。△(動)一連

續す。

れんねん

連年(名) 年々。●毎年。

れんらく

連絡(名) つき。●つなぎ。△(動)一連絡

す。

れんく

聯句(名) 詩の對句。

れんぐり

連火(名) 烈然、樵等の漢字の下にある四つの

點の稱。火の字を崩して點を連れたるの意。

れんぐせき

煉瓦石(名) 洋風建築に用ふる一種の瓦。

れんま

練磨(名) 藝術を練り磨く事。●練習。△(動)

一練磨す。

れんげ

蓮華(名) 蓮の花。

れんげさう

蓮華草(名) 草の名。春の末田圃などに毛

氈を敷きたる如く蒺藜がり花さくもの。◎花

れんげつ

の形蓮華に似たる故の名。

れんげざ

連月(名) 月々。●毎月。

れんげざ

蓮華座(名) 蓮の花の形したる佛像の臺座。

れんこん

蓮根(名) 蓮の根。食用とするもの。

れんがふ

聯合(名) 組み合ふ事。△(動)一聯合す。

れんごく

煉獄(名) 羅馬教にていふ詞。死者の靈魂の

先づ鍛煉して淨めらるゝ獄屋。

れんざ

連座(名) 罪のまきぐへ。△(動)一連座す。

れんぎ

連木(名) 挿木に同じ。

れんげ

連翹(名) 木の名。春黄色に美しき花さく

れんめん

連綿(副) 引き續きて絶えぬ有様。

れんみ

連名(名) 數人の姓名を連ね記す事。●

運署。

れんみん

憐愍(名) 憐みの心。

れんし

連枝(名) 「一」兄弟。「二」徳川時代にては大名

の細別。三家の庶流をいふ稱。

れんじ

樗子。連子(名) 窓の格子。●れにし。

れんし

連署(名) 二人以上姓名を連れて記する事。●

連名。△(動)―連署す。

れんじつ

連日(名) 日々。●毎日。

れんしぐ

連借(名) 二人以上連名にて金錢を借り入る

事。△(動)―連借す。

れんじぐ

連雀(名) 小鳥の名。冬より春にかけて群が

り飛ぶ薄桃色の美しきもの。

れんし

練修(名) 藝術を練り修むる事。●さらへ。

●稽古。△(動)―練修す。

れんせん

連戦(名) 續け様に戦ふ事。△(動)―連戦す。

れんせんあしげ

連錢葦毛(名) 馬の毛色の名。灰色に

して鳥目を並べたるが如き斑ある葦毛。

れんず

練(自動サ變) 熟練する。●老練する。○源氏

「宮なごのれんじ」給へる人にて」

れきはかせ

曆博士(名) 官名。昔し陰陽寮に屬して曆

道を掌りたるもの。

れきだい

歴代(名) 歴來りたる代。

れきれき

歴々(名) 貴人。●門閥家。

れきねん

曆年(名) 曆にて示す一月一日より十二月三

十一日までの順序の年月。……學年などに

對して云ふ。

れきし

歴史(名) 代々の記録。

れもん

(名) 舶來の菓物の名。香氣の高きもの。

